

まんまるまつり

日時：2011年5月22日（日曜日）11:00～14:00

場所：まんまる広場（横浜市都筑区）

私たちは、子どもの頃、いろんな夢を持っていました。
その夢を信じていました。
サンタクロースは、良い子にプレゼントをあげることを。
ピーターパンは、楽しい子どもの世界に連れて行ってくれることを。
そんな素敵な夢が、私たちを育ててくれました。
そんな素敵な夢物語が、私たちを大人にしてくれました・・・

ここは、神奈川県横浜市都筑区にある小さなフリースペースです。そこに涙するひとりの大人がおりました。

そのひとりの大人は、「大人って何だろう」と思っていました。

私たちは、子どもの頃にいろんなことを体験し、経験し、学んだから、大人になることができました。子どもの頃があったから大人になることができました。子どもの心を持っていたから、大人になることができました。

そんなことを考えていたひとりの大人が涙したのは、フリースペースにて上演されたミュージカル“ピーターパン”を観てしまったからです。

ミュージカル“ピーターパン”から伝えられたメッセージは・・・

素敵な夢が私たちを大人にしてくれました。
子どもの心が私たちを大人にしてくれました。

そのひとりの大人とは、私（山口：だがしや楽校コーディネーター）のことです。

その日私は、子どもも・大人も・男も・女も・障がいをお持ちの人も、そうでない人も、年齢・性別・肩書き・立場など一切関係なく、みんなが本当に楽しんでいる空間を体験することができました。そこでは、大人も子どもの心を持って、子どもたちをいっしょに遊びました。

そこは、まさに“だがしや楽校”的空間だったのです。

感激しました。その感激は、一気に涙する感激ではなく、ジワジワとこみ上げてくるものでし

た。心地よさを感じるものでした。

そんな心境でミュージカル“ピーターパン”を拝見したものですから、ここでは一気に涙したのであります。

さて、私が感激することになった“だがしや楽校”的空間とは、これからご紹介する“まんまるまつり”のことです。

私は翌朝、振り返りのため、また本レポートを企画・制作するため、“まんまるまつり”とミュージカル“ピーターパン”の取材データを再度チェックしました。そうしたら、恥ずかしながらここでも胸が詰まってしまい、再び涙してしまいました。

きっと素敵な夢物語が私たちが大人にしてくれる・・・

“まんまるまつり”に参加し、ミュージカル“ピーターパン”を観ていた子どもたちにも、このメッセージが伝わったことでしょう。



《はじめに》

2011年5月22日（日曜日）、“まんまるまつり”が、鴨池公園まんまる広場（港北ニュータウン4号公園：横浜市都筑区荏田東3丁目）にて開かれました。

主催したのは、冒険遊び場まんまるプレイパークです。

プレイパークとは、子どもたちが自分の意思で、自由に遊ぶことができる空間・遊び場のことです。プレイパークでは、子どもたちは自分で遊びを作り出すことができます。つまり、子どもたちにとっては、創意工夫の場です。遊具が準備されているお仕着せの公園・遊園地とは根本的に違います。

ただし、プレイパークでは自己責任です。私が子どもの頃は、遊んで怪我をすることは当たり前でした。怪我をすることで痛みを知り、失敗を知り、遊びを工夫しました。

ところが、最近は、自分の子どもが怪我をすると、それが自然なことがわからず、責任を迫る親が多くなりました。このため、創意工夫・人の痛みを知らないまま成長してしまう子どもたちが多くなったと言われていています。また、自己表現ができなかったり、公の場で遊ぶ（活動する）ことの意味を知らないまま成長する子どもたちが多くなったように感じます。

プレイパークとは、子どもたちが、自分の意思で、自由に遊ぶことで、子どもたちが人間として成長していく場であると言えます。また、そのことを親も、子どもたちといっしょに遊ぶことで、共に学んでいく場でもあります。

これって、何かに似ていますね。そうです。“だがしや楽校”です。

横浜市都筑区では、平成22年度、市民活動支援講座“つづき楽校”を開講しました。“つづき楽校”は、“だがしや楽校”を取り入れて、市民活動に携わる人たちを育成することを目的に開い

た年間講座です。昨年11月には“だがしや楽校・都筑区版”と言える“つづき楽校・わいわい横丁”を開きました。“わいわい横丁”には、東京・杉並、藤沢市・善行、栃木県・下野など全国から“だがしや楽校”仲間が集結しました。私（山口）にとっても、印象に残っている“だがしや楽校”のひとつが“つづき楽校・わいわい横丁”でした。

この“つづき楽校”の受講者のひとりが、まんまるプレイパーク・代表の西田さんです。

西田さんとは、私が初めて“つづき楽校”を取材・見学した時から、どういうわけか(?)縁がありました。“つづき楽校”初日の時も、講座が終わった後、都筑区の人たちと談義させていただいたのですが、最も印象に残ったのが西田さんでした。

その後の“つづき楽校”の状況を確認するために、私が都筑区（都筑区・区民活動センター）に立ち寄りますと、偶然にも西田さんと巡り会い、そのまま“まんまるプレイパーク”を見学することもありました。

しかし、これは偶然ではないと思います。西田さんは、今年（2011年）2月3日の“つづき楽校”卒業式にて「すでに“つづき楽校”では凄いものが生まれています」と語り、同じ“つづき楽校”受講者のアイデアを取り入れて、太陽系・銀河系のイメージで、“つづき楽校”を中心に、地域の人たちや団体がつながっていく様子を、ひとつの図画にしたのです。

この時私は、「もはや“つづき楽校”には先生は要らない。完璧に都筑区の市民活動として、自らの力で活動を展開している」と感じました。

これについては、今年（2011年）2月3日付けの“つづき楽校”卒業式レポートで詳しくご紹介しています。

今回の“まんまるまつり”も、2日前の5月20日、私が都筑区・区民活動センターを訪問した際に、中島さんと田中さんからお聞きし、「これは運命かな」と思い、急遽スケジュールに入れた次第です。

その中島さん・田中さんは、相変わらず良い仕事をされていることも、ここでご報告しておきます。センターを訪れた区民の人への適切なアドバイスぶりは、見事と言うしかありません。

ところで、一連の“つづき楽校”取材を通して、私（山口）は西田さんから学んだことがあります。それは“まんまるプレイパーク”が“つづき楽校”と共に都筑区に於ける市民活動の核のひとつになっていることです。

これまで私は、“冒険遊び場プレイパーク”に対して、子どもたちと保護者の人たち、それにプレイパークに関心を持つ関係者による活動、という印象がありました。

しかし、少なくとも“まんまるプレイパーク”は違いました。“つづき楽校”と同じように、地域の人や団体とつながっていたのです。もちろん“つづき楽校”ともつながっていますので、“まんまるプレイパーク”と“つづき楽校”を核にして、都筑区に於ける「つながり」「絆」は、より強いものになっていったのです。

それは、この日の“まんまるまつり”からもうかがい知ることができました。

この日の“まんまるまつり”では、地域の人たちが、年齢・世代・性別・立場・活動分野・障がいの有無に関係なく集いました。それだけでも、私にはカルチャーショックでした。

私は思います。「一人でも多くの人に“まんまるプレイパーク”及び“つづき楽校”の活動を学んでほしい」と。これが「本当の市民活動」なのです。“まんまるプレイパーク”及び“つづき楽校”の活動を学ぶことが、社会教育なのです。

そういう思いを込めて、ここに、2011年5月22日開催の“まんまるまつり”の模様をお伝えします。

元々は3月に開催するはずだった“まんまるまつり”でしたが、2011年3月11日午後2時46分18秒に発生した“平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震”によって引き起こされた“東日本大震災”の発生で、延期を余儀なくされました。

ちなみに、横浜市ではこの地震で、都筑区をはじめ大半の地点で震度5強から震度5弱を観測しています。

また、私が住んでいる山形県米沢市では、午後2時47分頃からいきなり強い揺れに襲われ、その後激しい揺れ（震度5強）が5分ほど続いたのに対して、横浜市では午後2時47分の後半から次第に揺れ始め、午後2時48分に入って、次第に揺れは大きくなり、午後2時49分には激しい揺れとなります。それから2～3分間大きな揺れが続きました。

これは震源域が、はじめは宮城県沖だったのが、岩手県沖・福島県沖・茨城県沖と、次第に関東地方に近づいていったからです。

神奈川県でも残念ながら亡くなった方がおります。それでも、千葉県などに見られる液状化による被害はほとんどないそうです。私が取材した範囲でも、横浜市内では、地震による被害を確認することはありませんでした。

何より“だがしや楽校”仲間の皆さんの無事を確認できて、ホッとしたのであります。



2011年5月22日（日曜日）横浜市の天気：晴れのち曇り 午後一時雷雨

【まんまるまつり】

午前10時すぎ、横浜市都筑区役所内・区民活動センターに着きました。田中さんのお子さんが“まんまるまつり”でおみせを出されるということで、田中さんの案内で、歩いて、会場である鴨池公園まんまる広場へ行くことにしていたからです。

私（山口）は、お若い田中さんですし、プレイパークですので、お子さんは小学生か中学生とと思っていました。ところが、お子さんとは立派な娘さんでした。ここで、早くもカルチャーショック！ 早くもクラクラしてきました？！ きょう1日大丈夫かな・・・？

娘さんは、友人の方とネイルアートのおみせを出します。プレイパークとネイルアート、これだけでも、地域の輪の広がりを感じます。

というわけで、4人で歩きながら、まんまる広場に向かいました。良い天気です。空気もさわやかです。しかし、この青空を存分に眺めたり、さわやかな空気を思う存分に吸うことができない

い場所が、日本に存在します。

私（山口）が住む山形県米沢市から僅か 40km、ひと山越えたところにある福島市では、子どもたちが外で遊ぶことができるのは、1時間以内なのです。これが現実です。これまで想像すら出来なかった現実です。

緑一杯の公園では、市民（都筑区民）の人たちが、思い思いに休日を楽しんでいました。

やがて、鴨池公園・まんまる広場に着きました。ここはその名の通り、まん丸い形をした公園です。すでに大勢の人たちが準備に取り掛かっています。



西田さんとも再会です。相変わらず輝いて見えます。

都筑区・区民活動センターの中島さんは、フリーマーケットのおみせを準備されていました。フリーマーケットには“つづき楽校”仲間の田所さんもおりました。田所さんも元気なご様子です。

同じく“つづき楽校”仲間の井口さんもまんまる広場に来られました。井口さんは、その後も多方面にわたり活躍されています。皆さん本当に素晴らしいです。



▼受付



▼警備

まずご紹介したいのは、警備の子どもたちです。警備は、鉄道マニアの会の3人の子どもたちが担いました。(写真には2人しか写っていません。すみません)



警備の子どもたちは、その名の通り、公園の安全確認をはじめ、来場者の案内、場内アナウンスなど多岐にわたり、お仕事をしていました。“まんまるまつり”終了後、私たちをミュージカル会場まで案内したのも、警備の子どもたちでした。

特筆すべきは、刻々と変化する状況に対して、柔軟に・臨機応変に対応していたことです。これには、私も頭が下がる思いでした。

私は今、若者を中心に、柔軟に・臨機応変に対応できない人が多くなっているのではないか、という気がしてなりません。

例えばです。“だがしや楽校”では、被災地の子どもたちを支援する目的で、おもちゃや絵本などを譲り受けることができました。このおもちゃや絵本については、被災地の子どもたちに送ることが第1になりますが、私などは広く考えて、山形県に避難されている子どもたちにも送ることを考えます。事実、私はそういう対応を行いました。ところが、「被災地の子どもたちを支援する目的で譲り受けたのだから、避難されている子どもたちに送るのは、おかしい」と思ってしまふ・・・というのが、柔軟に・臨機応変に対応できないという意味です。

これは、“だがしや楽校”や、ここにご紹介している“プレイパーク”で大切にしている自らの発想による創意工夫体験をしなかった・出来なかったためでしょうか。いずれにしても深刻なことです。

私たち大人が、警備の子どもたちから学ぶことは、たくさんあるのです。

なお、左の写真の左奥に写っているのが西田さんです。



▼まんまるカフェ

まんまるカフェでは、ジュースやコーヒーのほかに、せんべい汁を販売していました。まんまるプレイパークのメンバーに、青森県出身の方がいるためです。



まんまるカフェでは、子どもたちもおみせ番です。せんべい汁は、子どもたちにも大好評で、見事に完売しました。



▼子どものみせ



子どもたちが作っているのは、イチゴ・マシュマロ・チョコレートなどが材料のチョコフォンデュです。ほかにもクッキーなどのお菓子を販売しました。

こちらは“キラビ”のおみせです。キラキラするビーズを売っているからです。



ほかにも、ブレスレット・指輪・炭なども販売しています。コインが水の中の器に入るかな・・・という遊びもありで、みんなで盛り上がっていました。



こちらは、似顔絵とぬりえのおみせです。似顔絵は、まんが風に、キャラクターっぽく描くという、ちょっと変わった似顔絵屋さんです。



▼フリーマーケット



まんまるプレイパークのメンバーや地域の人たちによるフリーマーケットです。子ども服から手作りおもちゃまで、いろいろなものがあります。



都筑区・区民活動センターの中島さんや“つづき楽校”仲間の田所さんもおみせを出しました。



そこへ“つづき楽校”仲間の井口さんも加わり、わいわいフリーマーケットになりました。

▼つくってあそぼう

ここでは、かざぐるま・竹とんぼ・ぶんぶんこまを作りました。これらの遊びは、昨年11月14日の“つづき楽校・わいわい横丁”でも拝見したもので、“日本の竹ファンクラブ”の協力による遊びです。



ここで、冒険遊び場らしい風景をご紹介します。大人も、子どもも、ノビノビと遊んでいます。



▼ゲームコーナー

劇団みるき〜うえい（ミュージカル“ピーターパン”）メンバーによるおみせです。

そうです。このレポートのはじめにご紹介しましたミュージカル“ピーターパン”は“劇団みるき〜うえい”により上演されたのでした。

“劇団みるき〜うえい”のメンバーに、まんまるプレイパークのメンバーが含まれている関係で、“まんまるまつり”でもおみせを出しました。また、“まんまるまつり”が終わった後は、みんなでミュージカル“ピーターパン”を鑑賞したのであります。



おみせは、かいぞくボーリングとインディアンのわなげゲームです。ボーリングのピンとわなげの輪に注目してくださいね。



点数によって、ピーターパンのオリジナルステッカーがもらえる、というおみせです。

▼パフォーマンス

まんまる広場の一角では、歌や踊り、そして人形劇によるパフォーマンスのおみせが開かれました。パフォーマンスのおみせに出演したのは4組ですが、私（山口）は思わず4組とも見入り、聞き込んでしまいました。4組とも素晴らしいパフォーマンスだったからです。

それから良かったのは、音量が適度だったことです。よくありがちなのは、音楽ライブはイベント全体の一部なのに、大音量によって、イベント全体を食ってしまうケースです。

この日の“まんまるまつり”には、それがありませんでした。楽しい遊びの空間を壊すことな

く、それでも印象に残るパフォーマンスが繰り広げられました。

《うた：カナリア・アンサンブル》

渡辺麻衣さん（ソプラノ・ヴォーカリスト）を中心にしたカナリア・アンサンブルによる楽しい音楽コンサートです。



カナリア・アンサンブルは都筑区を中心に子どもから大人まで楽しむコンサートを開いています。インターネットを調べたら、渡辺さんのブログを見つけました。こちらです。↓

<http://musicmama.blog70.fc2.com/>

ブログによると、渡辺さんが横浜に来られたのは2004年。その後、小さな子どもを持ち、しかも音楽をやっていたというおかあさんたちとの偶然の出会いがカナリア・アンサンブルにつながったようです。

ブログには、渡辺さんの“まんまるまつり”の感想が記載されています。

《フラメンコ：アスカフラメンコ》

まんまるプレイパーク・メンバーのおかあさんの「自分みせ」によるフラメンコです。でも、本格的なもので、私も思わず釘付けになりました。



お子さんが脇で寝そべっていたり、みんなでかぶりつきになって見ていたり、と、“まんまるまつり”らしい微笑ましい風景が見られました。

《人形劇：飛び出せ園バス隊》

昨年（2011年）11月14日の“つづき楽校・わいわい横丁”ではゆっくり拝見することができなかった“飛び出せ園バス隊”による人形劇。“つづき楽校”の井口さんからの推奨もあり、この日はジックリ拝見しました。



保育園の園バスでおかあさんたちが人形劇を行っていたのが事の始まり。その後、園バス以外のところでもやってみようとなり、いろんなところで上演するようになったので“飛び出せ園バス隊”と名づけました。



今ではおかあさんたちだけでなく、いろんな人が参加するようになりました。



人形劇では、言葉遊びを通して、子どもたちに日本語をおぼえてもらおう、という工夫も見ら

れました。それにしても、この人気ぶりは凄いです。終いには、子どもたちがステージに殺到する？ほどでした。

《ゴスペル隊 詩音》

おかあさん・おとうさんたちのサークル“ゴスペル隊 詩音”による力強い歌声が、まんまる広場に響き渡りました。優しい先生の下で楽しく練習している“ゴスペル隊 詩音”では、メンバー募集中です。



おかあさん・おとうさんにまわり付く子どもたちが可愛いです。

▼リラックスコーナー：ネイルアート

お待たせしました。都筑区・区民活動センター・田中さんの娘さんとお友だちによるネイルアートのおみせをご紹介します。



写真のように、子どもたちにも大人気でした。

ところで、ネイルアートの売上金について、まんまるプレイパークのスタッフから「自分たちの活動で得たお金ですから、持って行ってください」と言われたのに対して、娘さんたちは「私たちはボランティアで来ましたので・・・」と言って受け取りませんでした。つまり、まんまるプレイパークに寄付されたのです。

なお、この日の“まんまるまつり”での売上金の一部は、大震災支援に充てられるそうです。

▼リラックスコーナー：マッサージ

いっぱい遊び・いっぱい活動し、疲れてしまった体を、マッサージで癒しましょう。



オッと、右の写真では、スタッフが癒されています。仲間からは「あ～れ～！」の声。

気が付いたら、アツという間に、終わりの午後2時になってしまいました。

午後から雨の予報も出ていたお天気でしたが、なんとか午後2時まで我慢してくれました。本当に楽しかったです。

このあとは、鴨池公園・まんまる広場から400mほど離れたフリースペース“えだきんパーク”へ移動し、“劇団みるき～うえい”によるミュージカル“ピーターパン”の鑑賞です。

“えだきんパーク”へ案内してくれたのは、警備の子どもたちです。

えだきんパーク（荏田南近隣センター商店街内）は、コミュニティ複合施設で、地域の人たちがホッとできる空間となっています。また、フリースペースとして、お弁当を持ち込んだり、イベント会場にもなります。

特に障がいをお持ちの方のフリースペースの場として活用されています。これは、障がい者の雇用支援などに取り組んでいるピアサポートが、えだきんパークを事務所にして活動しているからです。

荏田南近隣センター商店街公式ホームページ（えだきん公式サイト）↓

<http://www.edakin.jp/>

▼ミュージカル“ピーターパン”

えだきんパークに入りますと、そこはウキウキワクワクいっぱいの夢空間でした。子どもたちも、これから始まるミュージカルを楽しみに待っていました。

“劇団みるき〜うえい”は、2004年に結成されました。東京都や神奈川県川崎市を中心に、生演奏で手作り感あふれるミュージカルを公演しています。生の人間が生演奏をバックに演じるミュージカルにこだわっています。そして、子どもだけでなく、大人もいっしょに楽しむミュージカルにもこだわっています。

先にもご紹介しましたが、この日は団員が“まんまるプレイパーク”のメンバーでもあることから、“まんまるまつり”に参加し、横浜市都筑区での公演となりました。

午後3時すぎ、いよいよ親子ふれあいミュージカル“ピーターパン”（主催：劇団みるき〜うえい 共催：まんまるプレイパーク）が始まりました！！



約1時間のミュージカルが終わり、私は感動していました。

感動の背景には、手作りミュージカルであること、クオリティーが高いこと、演技・歌唱も素晴らしいこと、構成・編集・脚本・脚色・舞台演出・照明・音楽なども素晴らしかったことを挙げることができます。バックで生演奏を担ったキラキラ音楽隊のお二人も素晴らしかったです。

それに加えて、“まんまるまつり”で楽しく過ごした後でしたので、本レポートの冒頭にご紹介したように、感動がさらに深まったのでした。

劇団みるき〜うえい 公式ホームページ↓

<http://gekidan-milkyway.com/>

感動の余韻に浸りながら、“まんまるまつり”の打ち上げに参加しました。ここでも、まんまるプレイパークには、地域の多くの人たち・様々な人たちが参加していることを実感できました。つまり、まんまるプレイパークを中心にした「つながり」が、すでに築かれているのです。

“つづき楽校”を中心にしたつながり、まんまるプレイパークを中心にしたつながり、ここ都筑区では、ほかにもつながりが築かれているようです。それらのつながりが、さらにつながり、都筑区に於ける地域コミュニティが築かれています。本当に素晴らしいことです。

《振り返り》

それではあらためて、この日の“まんまるまつり”を振り返ってみましょう。

すでに書いている内容もありますが、振り返りということで、再度ご紹介します。

緑いっぱいのもんまるい公園に、適当におみせが出されていました。音楽や人形劇などのパフォーマンスもありました。それらはみんな、自分たちができること・得意なこと、自分たちが普段やっていること、自分たちも楽しむことができるもの、みんなにみせ（見せ・店）たいものを、それぞれ適当に持ち寄っておみせにしていました。

私は打ち上げで、「立派なイベントでなかったこと、適当におみせを出していたことが良かったです」と申し上げました。まさに手作りのおまつりでした。そうです。“まんまるまつり”は、まさに“だがしや楽校”でした。

子どもたちが出しているおみせもたくさんあり、年齢・性別・立場・障がいの有無など一切関係ないおまつりになっていました。

また、パフォーマンスしているおかあさんにまわり付くお子さんの風景を拝見しますと、それだけで手作りのおまつりであることがわかります。

緑いっぱいのもんまるい公園に、適当な間隔でおみせが出されていたのも、のんびり・まったり感漂う、良い雰囲気醸し出していました。

重複しますが、パフォーマンスの音量も適度でした。よくありがちなのは、イベントのひとつなのに、大音量によって、イベント全体を音楽コンサートが食ってしまうことです。きょうの“まんまるまつり”には、それがありませんでした。とにかく良い雰囲気でした。

それぞれのおみせやパフォーマンスからは、熱いものを感じました。

プレイパークについては、まんまるプレイパークと出会うまでは、冒険遊び場に共感を持った人たちだけの活動とと思っていましたので、まんまるプレイパークに於けるネットワークの広がり、人とのつながりには、ただただ敬服するばかりです。きょうの“まんまるまつり”は、そのひとつの現れです。

この背景には、きっと“つづき楽校”の影響があるのでしょう。だから、“つづき楽校”を開いた都筑区区民活動センターの中島さん・田中さゆりさんをはじめとするすべての人たち、それを受講され、講座修了後も“つづき楽校”として活動をしているすべての人たちに感謝です。

“だがしや楽校”が目指す人とのつながりを、この日の“まんまるまつり”で確認することができました。

こうなったのも、まんまるプレイパークを主宰する西田さんの人柄によるものと思います。

これも重複しますが、再度申し上げたいです。

警備の子どもたちの活躍ぶりには、私も舌を巻くほどです。次々に起こる出来事に対して臨機応変に対応する柔軟さは、特筆すべきものです。

これも重複です。

田中さゆりさん（都筑区区民活動センター）に、こんなに立派な娘さんがいるとは……。お友だちとネイルアートのおみせを担当していましたが、きょうの最大の収穫は、娘さんにお会いできたこと……。アレレ？

“まんまるプレイパーク”の活動、そして“つづき楽校”については、多くの人に学んでほしいと思います。本当の「つながり」「絆」とは……が、ここから見えてきます。

今、子育てに悩んでいる親が多いと言われています。

子どもとの接し方がわからない親が多いと言われています。

被災地の人たち、避難所で暮らす人たち、あるいは故郷を離れて生活している人たちの中には、子どもたちをどうやって支えていけば良いのか、悩み続けている人が多いと言われております。

このようなことを聞きますと、私もつらいです。

しかし、私は思います。「大人の論理で考えるから悩んでしまうのではないか」と。

大人である私たちも、子ども時代がありました。その子ども時代を振り返り、子どもの心になって考え、できることから実践していけば、悩みは小さくなるはずです。

まんまるプレイパークのメンバーである一人のおかあさんが、まんまるプレイパークに参加した理由を、次のように言いました。

「子どもがはまったから、入りました！」

この言葉がすべてを物語っています。

帰りの新幹線。福島県に入りますと、地震の爪跡が目につくようになります。大変なことです。しかし、“まんまるまつり”でいただいた感動と学びを振り返りますと、この困難は、きっと乗り越えることができるのではないかと強く思ったのでした。

西田さんをはじめ、“まんまるまつり”のすべての皆様に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター